

年頭所感（週刊ケイザイ防長）

日本銀行下関支店長 辻 信二

令和8年の年頭に当たり、謹んで新年のお祝いを申し上げます。

昨年、わが国経済は、一部に弱めの動きもみられましたが、緩やかに回復しました。県内でも昨年12月短観で製造業の業況改善や高水準の設備投資計画が確認されました。特筆すべきは、日銀の展望レポートにある通り、企業の賃金・価格設定行動が積極化している点です。コスト上昇の価格転嫁が進み、賃金と物価が相互に参照しながら緩やかに上昇していくメカニズムは、着実に維持されています。

本年は、各国の通商政策等の影響を受けて海外経済が幾分減速し、わが国経済の成長ペースも緩やかなものに止まる可能性が高いとみています。しかし、その後は海外経済が成長経路に復していくもとで、国内の成長率も再び高まっていく見通しです。

昨年12月19日の金融政策決定会合において、日銀は、この見通しが実現する確度が高まっていることから、政策金利の引き上げを決定し、金融緩和の度合いの調整を一段進めました。

こうしたもとで、本年も、事業の付加価値や収益性といった経営の真価がシビアに問われることとなりますが、その追求こそが、賃上げや省力化投資を可能にし、人手不足下での事業継続を盤石にします。この点、県内企業の「柔軟かつ筋肉質な経営」が、本県経済を力強く発展させると確信しています。本年も宜しくお願いします。